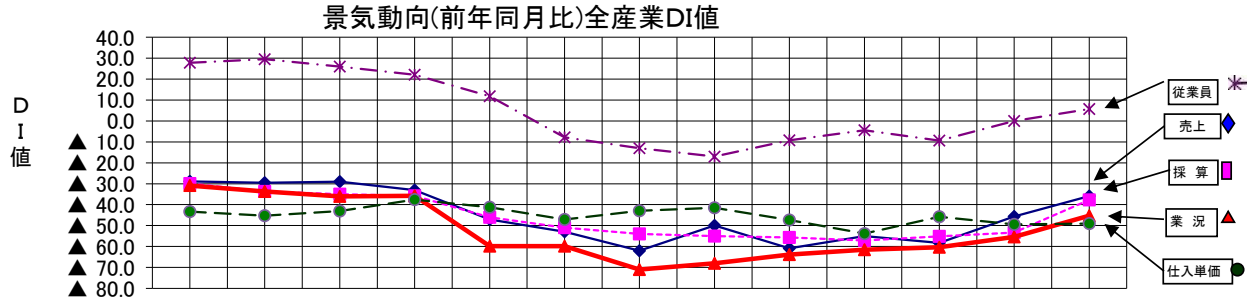


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 11月分

【11月の概要】 コロナ禍の先行きが不透明だが、最悪期を脱し持ち直しの動きが窺える

業況DIは依然コロナ禍発生前を下回る低水準ながらも全ての項目で改善した。特に採算DIは15.6ポイント、業況DIも10.1ポイントと改善幅が大きく、業況DIは6ヵ月連続で上昇している。従業員DIは8ヵ月ぶりに不足局面に入った。先行き見通しについては、業況と仕入単価で3ヵ月ぶりに悪化した。売上、採算、従業員の各DI値が4ヵ月連続で改善しており、引き続き厳しい状態にはあるものの持ち直しの動きが見える。

寄せられたコメントも、全体的には慎重な意見が多いものの、GoToキャンペーンの効果を実感する声もあり、最悪期を脱しつつある状況が窺えるが、第3波の推移・影響が懸念される。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2019年11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	2020年11月
売上	▲ 28.9	▲ 29.5	▲ 29.0	▲ 33.0	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 62.0	▲ 50.0	▲ 60.8	▲ 55.0	▲ 58.3	▲ 45.7	▲ 35.9
採算	▲ 29.9	▲ 33.7	▲ 35.0	▲ 35.8	▲ 46.1	▲ 51.0	▲ 54.0	▲ 55.0	▲ 55.7	▲ 57.1	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 37.7
業況	▲ 30.9	▲ 33.7	▲ 36.0	▲ 35.8	▲ 59.8	▲ 59.8	▲ 71.0	▲ 68.0	▲ 63.9	▲ 61.5	▲ 60.4	▲ 55.4	▲ 45.3
仕入単価	▲ 43.3	▲ 45.3	▲ 43.0	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 42.9	▲ 41.5	▲ 47.4	▲ 53.8	▲ 45.8	▲ 49.4	▲ 49.0
従業員	27.8	29.5	26.0	22.0	11.8	7.8	13.0	17.0	9.3	4.4	9.4	0.0	5.7

- ・マイナス幅が減少したDI値：売上9.8ポイント、採算15.6ポイント、業況10.1ポイント、仕入単価0.4ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員5.7ポイント

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
9月	▲ 39.6	▲ 42.7	▲ 40.6	▲ 7.3	▲ 7.3
10月	▲ 27.2	▲ 25.0	▲ 30.4	▲ 6.5	1.1
11月	▲ 22.6	▲ 17.9	▲ 34.0	▲ 7.6	4.7

- ・見通しが改善したDI値：売上4.6ポイント、採算7.1ポイント、従業員3.6ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：業況3.6ポイント、仕入単価1.1ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	新型コロナの影響で、連鎖的に受注が減少。差別化可能な営業方法を考え減少幅を最小限に食い止めたい。
	ゼネコン	これまで以上に公共工事の発注規模が小さくなっている。
製造業	鋼材	新型コロナの影響は本年度は比較的小さいが、公共工事・民間工事の新年度予算への影響等先行きが不透明。
	鉄工	大統領選も終わり今後のアメリカの経済政策がどう動くか注目すべき点である。
卸売業	機械器具	業績については現在が底だと思われるが、回復までにはしばらく時間がかかりそうだ。
	食料品	食品小売関係は順調に推移しているが、業務用は対前年比80%ほどであろう。
小売業	眼鏡販売	「地域のお店応援商品券」や「GoToキャンペーン」の効果により前年度より、売上が上がった。
サービス業	飲食	GoToキャンペーンの影響で個人消費が上向いたが、新しい生活様式への対応が今後の課題。
	看板	イベント等は少しずつ形を変えて復活しているようだ。地道にやっていくしかない。
	運輸	新型コロナウィルスの影響により扱ひ量が伸び悩んでおり、今後も暫くは期待できないと思われる。